

大丈夫よ！

お母さん！

教育コーディネーター 中西美沙子



(今回のテーマ)

遊びの情景

幼児が遊ぶ姿は、見ていて飽きることはありません。

お気に入りのオモチャを投げたり、なめたり、箱に入れたりして幼児は遊びます。仕草の愛らしさだけでなく、そこから保護者は子どもを守る意識を育みます。「愛おしい」という感覚が生まれるのも、だからでしょうか。

言葉にならない声や音楽のように聞こえます。「ほーっ」「ははっ」。その声の向こうに、子どもの世界が無限に広がります。柔らかな手は、何をつかまえようとしているのでしょうか。輝きに満ちた瞳が、見ているものは何でしょうか。

私ごとですが、昨年末に二人の孫が誕生しました。女の子と男の子です。自分の子どもは無我夢中で、「育てることをゆつくりたのしむ余裕など、ありませんでした。でも今は、少し距離をとって接することができ、その分、「命の躍動」のようなものを、じかに感じることがができます。泣いても笑っても、どんなことでも、幼い子どもたちは、私に命の息吹きを与

えてくれます。

遊びは、子どもにとっても大切なものです。遊びながら、子どもは、世界にふれてゆきます。その世界は、「安心」がなくては得られないものです。

「安心」を糧に、子どもは成長しますが、その「安心」を与えるのは、親や大人です。今の親の中には、「安心」を勘違いしているような人がいるのかもしれない。

現代の子どもは、物の豊かな時代を映して、多くの物や場所に囲まれて育っています。オモチャ一つをとっても、部屋中にあふれています。遊び場所も整備されています。でもどこか「負しい感じ」を受けるのはなぜでしょうか。「与えられた物」や「与えられた場所」が持つ味気なさが、そこにある気がするからでしょうか。娘が連れてくる五か月の子は、お菓子の空き箱が大好き。ちいさな手でばんばんたたいて、その紙の箱の反応がたのしくてならないようです。目の輝きで、それがわかります。私たちは、目先のものに目を奪われます。

良いオモチャ。良い遊び場。良い部屋など。制限なく思いを巡らせませす。でも本当に大切なのは、そういう物たちでしょうか。

子育ては、「育てる」だけではなく、親が「育てられる」稀な経験でもあります。自分の幼児期を「生き直す」ことができるのが、子育てでもあるからです。

まど・みちおさんの詩に、そんなことを感じさせるものがあります。「パパ」です。

はなうたで あかちゃんのおし
めを かえていた パパが うひ
えー！ と さげんで

ひっくりかえった てあし ばたば
た かお くしゃくしゃ わっはっは
つは わっはっはつは

いつたい どちが あかちゃんな
んだ こんな うれしそうな パパ
はじめて みるけど パパだつて
はじめてなんだろう パラの かお
りの あつたかい てんしの ふんす
いで かお あらつちやうなんて…

この詩は、子どもの目線で世界を見る喜びに溢れています。

子どもが遊ぶのを、親もたのしむ。そんな世界から生まれるものは、人間としての輝きです。現代が見失った大事なものの一つですね。

家を出て幼な子と散歩をすると、見えてくる世界がありませんか。路地の日だまりでタンポポが背伸びをしている。その花を見つけて、幼な子がすわりこみます。花がささやきます。一緒に遊ぼうと。子どもと遊びながら大人は、そんな「時」の繰り返される命の奇跡を感じるのです。



Profile

教育コーディネーター
中西美沙子

執筆・講演活動のかたわら、様々な部門の文化事業を展開する「(株)クシアシオン」の代表。文章教室「スコーレ」画廊「キューブブルー」「建築プロデュースすまい」「食彩いわさか」「ときわ薬局」など。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところだ。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子 検索



ピアノシモでね
中西美沙子 著

著書の「ピアノシモでね」(東京書籍)は、中日新聞に連載した人気コラム「つかまえて！ここ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。(税込1,500円)
※お求めは浜松市内の谷島屋で。